

# 小笠原諸島南海域より採集された オオミットゲチヒロエビについて

杉 浦 暁 裕

On scarlet shrimp, *Plesiopenaeus edwardsianus* JOHNSON collected from the southern region of the Ogasawara Islands.

Akihiro SUGIURA\*

## は し が き

オオミットゲチヒロエビ *Plesiopenaeus edwardsianus* (JOHNSON, 1867) は、インド洋、西太平洋と大西洋から分布に関する報告があり、特に大西洋に関しては海洋水産資源開発センター (1980) を始めとして資源開発に関する調査報告がある。しかし、日本近海においては通山・林 (1982) により土佐湾から採集された報告があるだけである。筆者は小笠原列島南海域より採集したのでここに記録する。

本文に先立ち、採集に多大な御協力を頂いた新崎正博

船長はじめ相模丸乗組員各位に深く感謝する。

## 材料および方法

本標本は当試験場所属の漁業指導船相模丸 (240.78 トン) の日本南方海域底魚漁場調査において底立はえ縄により混獲されたものである。底立はえ縄の構造を図 1 に示した。なお、餌は短冊型に切ったイカを使用す。採集年月日は1988年2月6日である。採集場所は北緯22度10分、東経141度44分の通称福神西の場と呼ばれる海山の東側斜面の水深約870 m付近である。なお底質は泥であった。

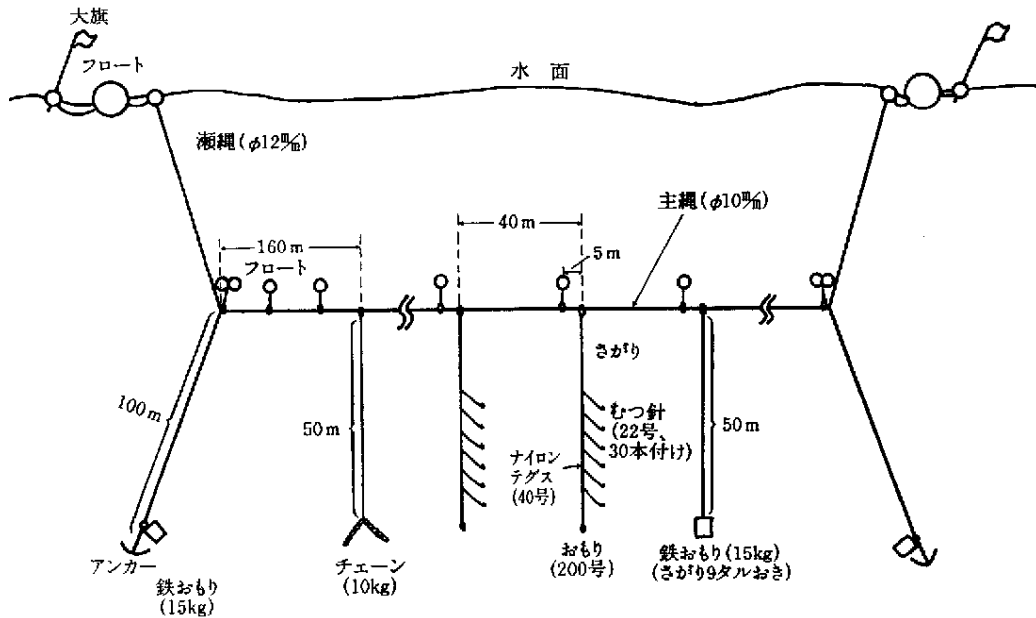


図 1 底立はえ縄漁具

## 結 果

本標本は林 (1983) に基づき次の形態的特徴によりオオミットゲチヒロエビと同定した。本標本の形態的形質を表 1 に示した。本標本の体色は鮮かな赤色である。体

表 1 オオミットゲチヒロエビの形質

体 長	263mm
頭 胸 甲 長	116mm
額 角 長	31mm
体 重	187 g

は平滑で額角は頭胸甲長に比べて短かく、その上縁に 3 歯を有する。触角上棘と鰓前棘を有するが肝上棘はない。腹部の第 2 ~ 第 6 節に正中隆起を有し、そのうち第 3 ~ 第 6 節はその正中隆起が棘で終わり側板の後側部にも小さな棘を有する。尾節は先が尖り 4 対の可動棘がある。第 1 触角柄部第 1 節の外側にある触角棘はその節の先端まで達する。第 2 触角の鱗片部は著しく伸長する。第 2 顎脚の外肢は長く、第 3 顎脚の内肢先端近くに達する。歩脚には外肢がなく歩脚の長節には棘がない。なお、本標本は第 4, 第 5 歩脚間に雌性生殖器を有していたので雌である。

このオオミットゲチヒロエビをさらに採捕するためにエビ籠に餌としてマイワシを入れ漁獲試験を行った。前述の本標本採集地点に 1988 年 2 月 7 日にエビ籠 34 個を投入し翌 2 月 8 日に揚げたがオオミットゲチヒロエビは採捕されなかった。

## 考 察

本種はインド洋、西太平洋及び大西洋に広く分布する種であるが、その採集記録を見ると土佐湾やスリナム・ギアナ沖等の大陸棚斜面からの報告である。それに対して今回の採集は大陸棚斜面ではなく日本列島から南へ約 1,400 km 離れた火山列島南の海山である。これは本種が大陸棚斜面だけではなく大洋に広く分布している可能性を示唆するものである。

さて、本種はスリナム・ギアナ沖において海洋水産資源開発センターがスカーレットブロンあるいはスカー

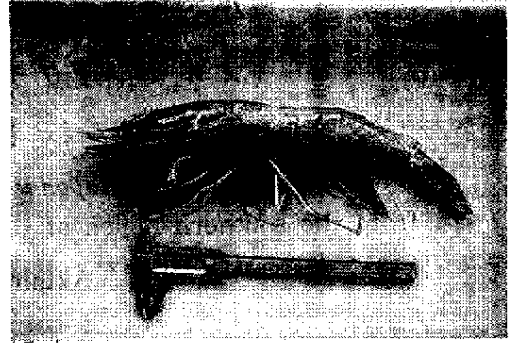


図 2 オオミットゲチヒロエビ

レットシュリンプという名称で企業化試験を行った種である (海洋水産資源開発センター (1980 ~ 1983))。その試験結果によると、分布水深が深く操業効率が悪いこと、可食部の歩留りが悪いこと、見栄えが悪いこと、流通経路が確立されていないことなど、製品化のための問題点が指摘されている。一方、国内の販売価格は有頭で 700 ~ 1,500 円/kg であったと報告されている。今回採集された漁場は本州から通常の漁船の速度で 3 日ないし 4 日で到着する場所であるので、本種が大量に分布しているのであれば製品化できる可能性がある。しかし、再度の漁獲試験では採集されなかった。また、水産庁研究部他 (1980) の九州 パラオ海嶺、沖縄舟状海盆の調査においても採捕された記録はない。従って、本種は日本周辺においては製品化するほど濃密に分布していない可能性が強い。

## 引用文献

- 林 健一 (1983) : 日本産エビ類の分類と生態 チヒロエビ科 (亜科), 海洋と生物, 28, 366 ~ 369
- 海洋水産資源開発センター (1980 ~ '83) : 昭和 54 ~ 57 年度深海性えび等新資源開発調査報告書
- 水産庁研究部他 (1980 ~ '81) : 昭和 53 ~ 54 年度大陸棚未利用資源精密調査報告書
- 通山正弘・林 健一 (1982) : 土佐湾の砂泥性、浮遊性エビ類とその分布, 南海海区水産研究所研究報告, 14, 83 ~ 105